

ミニ・ディスクロージャー誌

KIYO

第204期 営業のご報告

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

トピックス

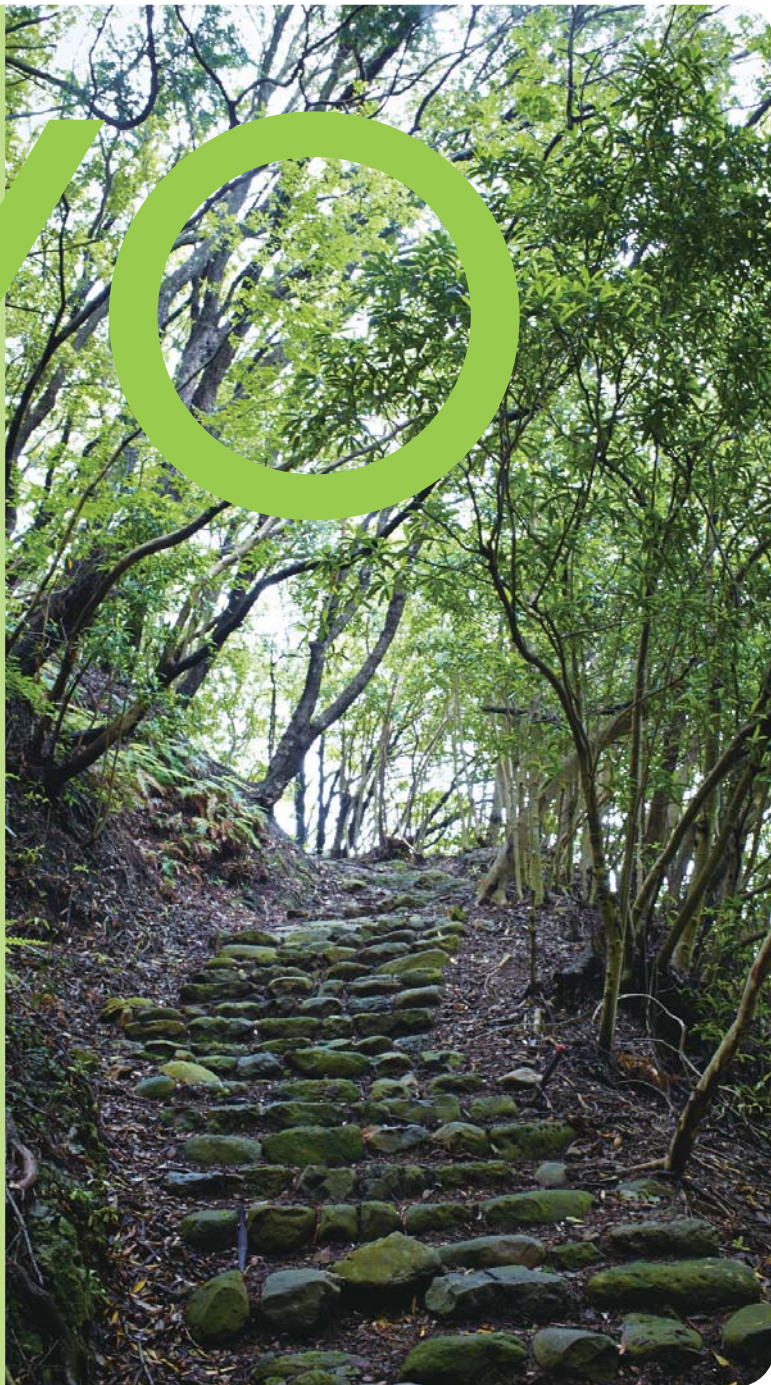
地域密着型金融の取り組み

CSR活動

業績ハイライト



紀陽銀行





取締役頭取 **片山博臣**

ミニ・ディスクロージャー誌
平成26年3月期 営業のご報告

目次

■ ごあいさつ	1
■ 第3次中期経営計画	2
■ トピックス	3
■ 地域密着型金融の取り組み	5
■ CSR活動	7
■ 業績ハイライト	9
■ 財務諸表	11
■ ネットワーク	13
■ 株式情報	14

ごあいさつ

皆さまには平素より紀陽銀行をはじめ紀陽フィナンシャルグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

このたび「平成26年3月期 ミニ・ディスクロージャー誌」を作成いたしました。業績や第3次中期経営計画の概要、また、最近の取り組み状況などをまとめておりますので、ご一読いただければ幸いに存じます。

昨年度のわが国経済は、政府の各種経済対策や日本銀行の金融緩和の効果などにより、円安・株高傾向が強まるなか、企業・家計の景況感の好転や復興需要等の支えにより国内需要が底堅く推移し、緩やかな景気回復の動きが続きました。

当行グループの主要な営業エリアである和歌山県では本年予定される「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産10周年イベントや平成27年の「紀の国わかやま国体・大会」開催および「高野山開創1200年記念大法会」などに向けて、近畿自動車道紀勢線や京奈和自動車道などの道路交通インフラの整備が進みました。大阪府でもJ R 大阪駅周辺や阿倍野周辺での再開発事業を筆頭に府内各地で商業施設等の開発や開業がみられました。

当行グループの業績等につきましては、預金・貸出金とも残高は順調に増加し、利益についても当初計画を上回ることができました。また、平成25年9月に公的資金を全額返済するとともに、10月1日には親会社であった紀陽ホールディングスを紀陽銀行が吸収合併し、東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。

紀陽銀行は明治28年に設立し、地域の皆さまに支えられ、来年5月に創立120周年を迎えます。今後とも、全役職員が一丸となって、当行グループの経営基盤強化や地域経済の活性化に努め、「お客様から選ばれ続ける銀行」の実現に向けて邁進してまいりますので、引き続きご支援、ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成26年6月

※本冊子に記載している計数は、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。

第3次中期経営計画

KIYO BANK 2014.3

平成24年4月より第3次中期経営計画をスタートしております。大阪府南部から和歌山県に強固な営業基盤を有する地域のトップ地銀へとなるべく、地元経済の成長を促す「強力なリレバン活動」を推進してまいります。

紀陽銀行の 基本方針

目指すべき銀行像

「お客様から選ばれ続ける銀行」

お客様の満足を第一とする心（ハート）を大切に、お客様の良き相談相手として
知恵（ブレイン）を絞り、汗をかき行動する（アクション）銀行を目指します。

第3次中期経営計画における主要テーマ

「大阪府南部から和歌山県に強固な営業基盤を有する
地域のトップ地銀」への着実な変身

公的資金完済とその後の安定的な内部留保蓄積を
可能とする収益力の確保

地域内での存在感を高め、営業基盤である
地元経済の成長を促す「強力なリレバン推進」

主要戦略

①大阪府南部を中心とした
営業基盤の強化

②顧客満足度向上に向けた
営業体制の変革

③経営管理態勢の強化

④CSR活動推進等による
存在感の向上

紀陽銀行単体			平成25年3月期	実績	平成26年3月期	実績	第3次中期経営計画 平成27年3月期	計画
規 模	預金等期末残高		3兆5,991億円		3兆6,972億円		3兆6,000億円以上	
		うち個人+一般法人の残高	3兆3,909億円		3兆4,360億円		3兆4,500億円以上	
	貸出金期末残高		2兆5,828億円		2兆6,079億円		2兆6,000億円以上	
		うちローン残高	8,884億円		8,880億円		9,300億円以上	
	投資信託期末残高		1,687億円		1,658億円		1,850億円以上	
収益性	コア業務純益		181億円		156億円		200億円以上	
	コア業務純益ROA(コア業務純益÷総資産期中平均残高)		0.47%		0.39%		0.50%以上	
効率性	OHR(経費÷業務粗利益)		57.51%		68.25%		65%程度	
健全性	不良債権比率		3.50%		3.42%		3.5%未満	

旧紀陽ホールディングス連結			平成25年3月期	実績	紀陽銀行連結	平成26年 3月期	実績	第3次中期経営計画 平成27年3月期	計画
収益性	当期純利益		181億円		104億円		90億円以上		
健全性	自己資本比率		11.14%		11.20%		11%程度		

※紀陽銀行は、平成25年10月1日に紀陽ホールディングスを吸収合併しましたので、26年3月期の連結実績は、紀陽銀行連結の計数です。

※自己資本比率については、平成26年3月末より新たな自己資本比率規制（バーゼルⅢ）を適用しています。

トピックス

2013
Oct.

10月

「中小企業経営者のための事業承継セミナー」の開催

10月16日、フォルテワジマにおいて、和歌山県、和歌山商工会議所との共同主催による「中小企業経営者のための事業承継セミナー」を開催し、紀陽銀行のお取引先企業より65名が参加されました。司法書士法人ソレイユの代表・河合保弘氏を講師にお招きし、長寿企業に繋がる戦略的事業承継をテーマとした講演を行い、参加者の皆さまから好評をいただきました。



2013
Oct.

10月

「地方銀行フードセレクション2013」の開催

10月21日、22日の2日間、東京ビッグサイトにおいて、紀陽銀行と地方銀行合わせて38行の合同主催により、地方の食品・食材の全国的な市場展開を目的とした展示商談会「地方銀行フードセレクション2013」を開催いたしました。紀陽銀行のお取引先企業を含む640社が出展され、国内外合わせて1万人以上のバイヤーが来場、活気あふれる商談が行われました。和歌山県のゆるキャラ「きいちゃん」も応援に駆けつけ、盛況のうちに会は終了しました。



2013
Nov.

11月

「世界遺産定期預金」の取扱い

11月1日から、「世界遺産定期預金」の取扱いをいたしました。平成26年7月に世界遺産登録10周年を迎える「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全・活用を支援するため、お客さまにお預入れいただいた総額の0.01%相当額を和歌山県世界遺産協議会に寄付させていただきます。



今後も、お客さまの暮らしに役立つさまざまな商品の開発に努めるとともに、地域の観光資源や文化の育成に力を注いでまいります。

2013
Nov.

11月

「子育てサポート企業」の認定を取得

和歌山労働局より「子育てサポート企業」として認定され、「次世代育成支援対策推進法」に基づく次世代認定マーク「くるみんマーク」を取得いたしました。「くるみんマーク」は、従業員の仕事と子育ての両立を支援する雇用環境の整備や、全従業員の労働条件整備などについて行動計画を策定し、達成できた事業主が認定取得できるものです。これからも、全行員が最大限の能力を発揮できる職場環境づくりを目指します。



2013
Dec.12月 大阪府立高専
「企業合同説明会」の開催

12月15日、大阪府立大学工業高等専門学校において、地元企業と学生の皆さまの出逢いの場を提供する企業合同説明会が開催されました。紀陽銀行のお取引先企業である5社が参加され、学生と保護者の方々へ向けて熱心な企業PRをされました。また、14日には、同じく和歌山工業高等専門学校においても、企業合同説明会を開催しております。

2014
Jan.1月 和歌山高専
「企業実践講座」での講義

1月22日、29日の2日にわたり、和歌山工業高等専門学校において、企業が求める即戦力となる人材の育成を目指す「企業実践講座」が開催され、紀陽銀行行員が講師を務めました。本講座は和歌山県が実施する「産業人材育成支援事業」の一環として、県内企業の現場責任者がリレー形式で講義するものです。今回の講座では、財務管理をテーマに企業の経済活動の読み解きや、決算書についてのわかりやすい説明などが行われ、約90名の学生の皆さまが熱心に聴講されました。

2014
Feb.2月 「無担保住宅
借換ローン」
取扱いの開始

2月24日から、「無担保住宅借換ローン」の取扱いを開始いたしました。「無担保住宅借換ローン」は、ご利用中の他行の有担保住宅ローンを無担保でお借換えできる、メリットが非常に多い商品です。取扱い開始と併せて特別金利のキャンペーンも開始いたしました。

2014
Mar.3月 ベトナム銀行
との業務提携

中小企業の皆さまの海外進出支援を目指し、ベトナム国有銀行の一角であり商業銀行最大手であるベトナム銀行と業務提携契約を交わしました。この業務提携により、ベトナムへの進出・事業拡大をお考えの皆さまへ向けて、現地投資環境の情報提供、口座開設、資金調達などのサポートが可能になりました。引き続きお客さまの海外ビジネス活動の支援体制強化に努めます。



地域密着型金融の取り組み

地域金融機関として、法人・個人事業主の皆さまへの支援と地域経済の発展につながる、さまざま取り組みを行っています。

海外ビジネス活動のサポート

お客さまの海外進出や外為業務に関する課題解決に向けた支援の強化を目指して、「グローバル・サポート・デスク」を設置し、海外ビジネス活動における多様なニーズにお応えしています。

「グローバル・サポート・デスク」では、外部の公的機関やコンサルティング会社と連携し、「日中ものづくり商談会」などの商談会開催や、お客さま個別のご要望に応じたパートナー企業、販売ルートを紹介などを行っています。

また、紀陽銀行では海外金融機関との業務提携を積極的に推進し、現地とのネットワークを構築、お客さまへの経済情報の提供や口座開設・資金調達のサポートなどを行っています。26年度も、台湾、ベトナム、フィリピンの有力銀行と提携契約を追加し、お客さまの事業拡大にお役立ていただいております。



経営改善のサポート

経営内容の改善に取り組まれているお客さまを支援するために「経営サポート室」を設け、財務内容から経営全般までの改善策をご提案できるよう、営業店と一体となって取り組んでおります。

また、地域経済活性化支援機構、整理回収機構(RCC)といった外部機関や民間コンサルタント、中小企業診断士などとも提携し、お客さまの状況に応じた改善計画推進をお手伝いしております。

事業の抜本的再生についても、中小企業再生支援協議会など公的機関との提携や、事業再生ファンドの活用による支援体制の強化を図っています。



地域ブランド開発のサポート

地域のなかには、優れた産品を生み出しながらも、販路の開拓などに悩みをかかえておられる事業主さまが数多くおられます。こういった事業主さまと提携し、地域ブランドとしての新たな価値の創成や戦略的な販路開拓の支援に取り組み、地域の魅力発信と経済の活性化に貢献しています。

平成25年10月には、紀陽銀行と高野山金剛峯寺の提携により、地元の優れた食品・雑貨・工芸品などをプロモートする地域ブランド「高野山からの贈りもの」プロジェクトを立ち上げました。同プロジェクトでは、平成27年度に行われる「高野山開創1200年記念事業」を契機に、多彩な商品をさまざまな販路を通じて全国に発信、販売してまいります。



事業承継・相続のサポート

高齢化が進むなか、事業主の方にとって、後継者の確保などを含めた円滑な事業承継が重要な課題となっています。また、資産の相続についても、法律面での知識や財産運用のノウハウなどを含めた事前準備が不可欠です。金融機関としての知見とネットワークを活用し、これらの課題解決のサポートに取り組んでおります。

専門家を講師として招いた「事業承継セミナー」を開催するほか、事業承継に関するお客さまの個別相談を実施し、具体的な対策のご提案を行っております。

また、相続関連の支援充実を図るために、株式会社朝日信託と業務提携を行い、個人信託業務のお取り扱いを開始いたしました。遺言信託や相続関連業務などを含む、多様なご相談にお応えいたします。



CSR活動

紀陽フィナンシャルグループでは、
様々な社会貢献活動に取り組んでおります。



環境保全への取り組み

地域の美しい自然を守るために…

和歌山県「企業の森」事業

紀陽銀行では、和歌山県が森林の環境保全を目的として実施している「企業の森」事業に参画しています。和歌山県日高川町の「紀陽の森」において活動を行い、毎年、社内にてボランティアを募り、森林の保全活動に努めております。



よりよい街づくりと人々とのふれあいを大切に…

地域の環境美化活動

紀陽銀行では、創立100周年を機に平成7年6月に「紀陽銀行小さな親切の会」を発足させ、社団法人「小さな親切」運動本部に加入しました。各営業店エリアにおける清掃活動や地元の催し物へのボランティア参加などの活動を行っております。



自然遺産を次代に継ぐために…

熊野古道の参詣道環境保全活動

和歌山県が誇る「世界遺産」熊野古道は、雨や台風の影響にたびたび見舞われています。紀陽銀行では、熊野古道参詣道の傷みを修復し、その価値を守り次代へ伝えていくためのボランティア活動を行っています。





芸術・文化・スポーツを 通じた取り組み

広く文化にふれていただくために…

一般財団法人紀陽文化財団

平成7年より毎年開催している「紀陽コンサート」。平成26年2月16日には、イリーナ・メジューエワ氏他を迎えて演奏会を行いました。また、和歌山県立近代美術館・博物館で開催される展覧会に地域の皆さまをご招待しております。



スポーツの楽しさを伝えるために… バスケットボールの子ども教室(クリニック)

紀陽銀行の女子バスケットボール部「紀陽ハートビーツ」は地元の小中学生を対象としたバスケットボールの子ども教室を開催しております。地元で愛されるチームとして活動してまいります。



地域の 金融教育への 取り組み



現場の経済学を伝えるのために… 和歌山大学での経営論講義

和歌山県が実施している「産業人材育成支援事業」の一環として、和歌山大学で当行の役員が「和歌山企業トップ経営論」の講義を行っております。また、和歌山工業高等専門学校でも職員が講義を行っております。



未来のキャリア教育のために… 地域の中学生の職場見学

地域社会の繁栄に貢献するための活動として、和歌山市内の中学校でのキャリア教育をお手伝いしています。毎年生徒の皆さまが本店営業部を見学するとともに、銀行の仕組みや仕事のやりがい、社会貢献などについて行員と質疑応答を行っております。

業績ハイライト

業務粗利益(単体) **552億円**

コア業務純益(単体) **156億円**

貸出金利息は市場金利の低下の影響を受け減少しましたが、役務取引等利益は横ばいとなりました。国債等の債券関係損益が74億円減少したため、業務粗利益は前期比94億円減少の552億円となりました。また、コア業務純益は前期比25億円減少の156億円となりました。

経費 **377億円**

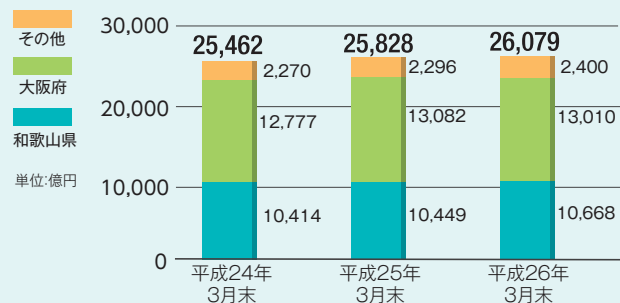
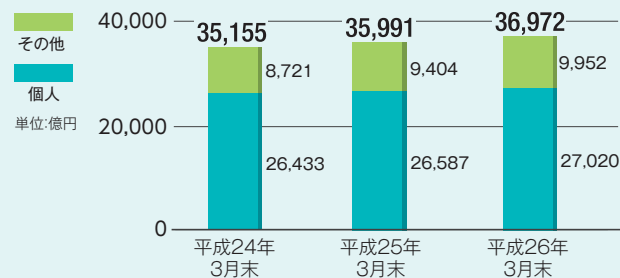
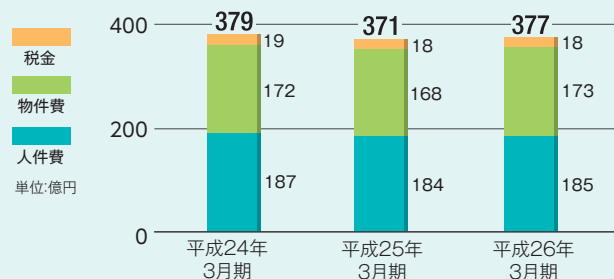
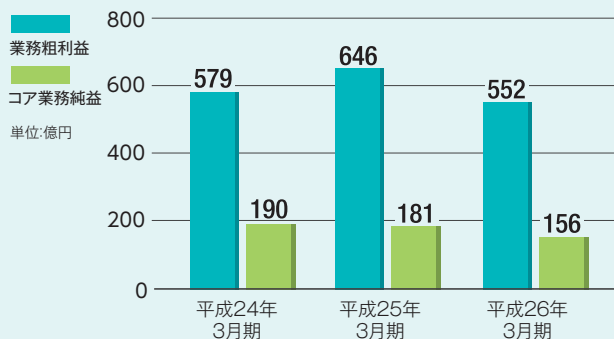
経費については、物件費が増加し経費全体で前期比6億円増加の377億円となりました。

預金等残高(単体) **3兆6,972億円**

預金等残高は個人預金とその他預金ともに増加し、前期末比981億円増加の3兆6,972億円となりました。

貸出金残高(単体) **2兆6,079億円**

貸出金残高は、前期末比251億円増加の2兆6,079億円となりました。

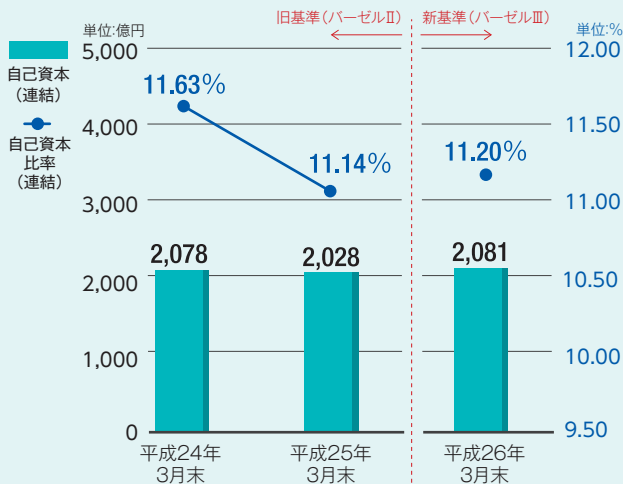


自己資本比率(連結) **11.20%**

自己資本比率(単体) **10.85%**

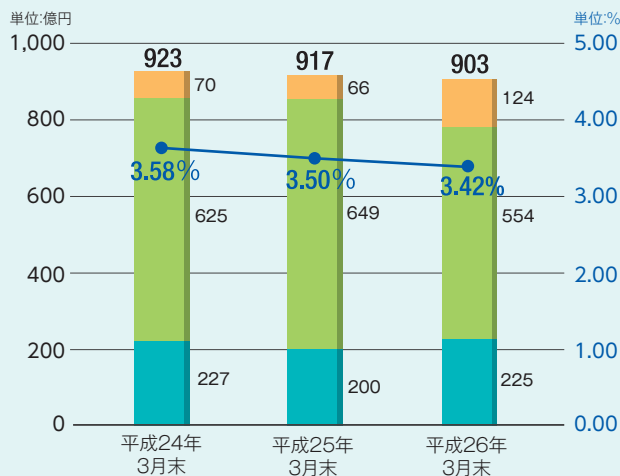
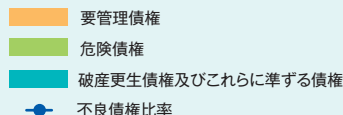
平成26年3月末より新たな自己資本比率規制(バーゼルⅢ)を適用しており、自己資本額(連結)は2,081億円となり、自己資本比率(連結)は11.20%となりました。

※平成25年3月末以前の自己資本比率は、旧紀陽ホールディングス連結(第二基準)の計数を記載しています。



不良債権比率 **3.42%**

不良債権残高は前期末比14億円減少し、903億円となりました。不良債権比率については、前期末比0.08%低下の3.42%となりました。不良債権額903億円のうち、85.5%は、担保や引当金等で保全されています。



用語解説

●要管理債権

3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

●危険債権

債務者は経営破綻の状態に至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権

●破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

●外部格付

外部格付とは、第三者の格付機関が、銀行や企業の「安全度」をランク付したものです。

外部格付

A_(JCR)

A_—(R&I)

紀陽銀行では、株式会社日本格付研究所(JCR)と株式会社格付投資情報センター(R&I)から格付上位のAランクを取得しています。

財務諸表

紀陽銀行(連結)

第204期末 連結貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	237,227	預金	3,582,468
コールローン及び買入手形	25,000	譲渡性預金	100,559
買入金銭債権	804	債券貸借取引受入担保金	84,035
商品有価証券	590	借入金	26,576
有価証券	1,126,952	外国為替	22
貸出金	2,600,169	社債	20,000
外国為替	2,430	その他負債	48,587
その他資産	21,645	退職給付に係る負債	30
有形固定資産	35,860	役員退職慰労引当金	32
無形固定資産	9,787	睡眠預金払戻損失引当金	526
退職給付に係る資産	12,182	偶発損失引当金	459
繰延税金資産	1,297	支払承諾	12,395
支払承諾見返	12,395	負債の部合計	3,875,694
貸倒引当金	△ 27,742	(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	6,903
		利益剰余金	69,209
		自己株式	△ 1,291
		株主資本合計	154,917
		その他有価証券評価差額金	21,283
		繰延ヘッジ損益	△ 70
		退職給付に係る調整累計額	3,958
		その他の包括利益累計額合計	25,171
		少数株主持分	2,816
		純資産の部合計	182,905
資産の部合計	4,058,599	負債及び純資産の部合計	4,058,599

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第204期 連結損益計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	76,346
資金運用収益	53,312
(うち貸出金利息)	(41,292)
(うち有価証券利息配当金)	(11,647)
役務取引等収益	11,403
その他業務収益	8,475
その他経常収益	3,155
経常費用	61,449
資金調達費用	4,242
(うち預金利息)	(3,074)
役務取引等費用	4,048
その他業務費用	5,376
営業経費	40,988
その他経常費用	6,793
経常利益	14,897
特別利益	15
特別損失	359
税金等調整前当期純利益	14,553
法人税、住民税及び事業税	1,147
法人税等調整額	2,800
法人税等合計	3,948
少数株主損益調整前当期純利益	10,604
少数株主利益	117
当期純利益	10,487

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結子会社	・ 紀陽ビジネスサービス株式会社	・ 株式会社紀陽カード
	・ 阪和信用保証株式会社	・ 株式会社紀陽カードディーシー
	・ 紀陽リース・キャピタル株式会社	・ 紀陽情報システム株式会社

紀陽銀行(単体)

第204期末 貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	237,079	預金	3,589,688
コールローン	25,000	譲渡性預金	107,559
買入金銭債権	804	債券貸借取引受入担保金	84,035
商品有価証券	590	借入金	26,576
有価証券	1,129,558	外国為替	22
貸出金	2,607,943	社債	20,000
外国為替	2,430	その他負債	38,914
その他資産	7,394	役員退職慰労引当金	32
有形固定資産	36,437	睡眠預金払戻損失引当金	526
無形固定資産	6,508	偶発損失引当金	459
前払年金費用	6,065	再評価に係る繰延税金負債	177
繰延税金資産	2,121	支払承諾	12,395
支払承諾見返	12,395	負債の部合計	3,880,387
貸倒引当金	△ 24,013	(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	5,247
		資本準備金	259
		その他資本剰余金	4,987
		利益剰余金	64,460
		利益準備金	3,660
		その他利益剰余金	60,799
		繰越利益剰余金	60,799
		自己株式	△ 1,291
		株主資本合計	148,512
		その他有価証券評価差額金	21,162
		繰延ヘッジ損益	△ 70
		土地再評価差額金	324
		評価・換算差額等合計	21,416
		純資産の部合計	169,929
資産の部合計	4,050,317	負債及び純資産の部合計	4,050,317

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第204期 損益計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	68,381
資金運用収益	53,102
(うち貸出金利息)	(41,220)
(うち有価証券利息配当金)	(11,508)
役員取引等収益	9,142
その他業務収益	3,566
その他経常収益	2,570
経常費用	52,585
資金調達費用	4,242
(うち預金利息)	(3,075)
役員取引等費用	4,889
その他業務費用	1,416
営業経費	37,271
その他経常費用	4,766
経常利益	15,796
特別利益	15
特別損失	358
税引前当期純利益	15,453
法人税、住民税及び事業税	680
法人税等調整額	2,678
法人税等合計	3,359
当期純利益	12,094

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

役員一覧

(平成26年3月31日現在)

取締役頭取(代表取締役)	片 山 博 臣	常務取締役	鈴 木 教 秀	監査役(常勤)	樋 口 勝 二
専務取締役	泉 清 映	常務取締役	島 慶 司	監査役(常勤)	北 山 隆 一
専務取締役	松 岡 靖 之	取締役	爲 岡 英 喜	監査役(非常勤・社外監査役)	松 川 雅 典
常務取締役	森 川 保 彦	取締役	今 村 裕 一	監査役(非常勤・社外監査役)	増 尾 穰
常務取締役	成 田 幸 夫	取締役	竹 中 義 人	監査役(非常勤・社外監査役)	大 平 勝 之
常務取締役	鈴 木 健次郎	取締役(社外取締役)	水 野 八 朗		

ネットワーク

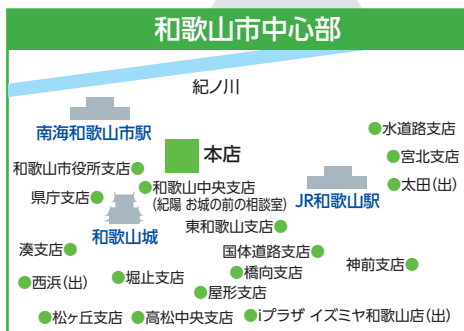
(平成26年3月31日現在)

紀陽銀行は、主要営業エリアである和歌山県、大阪府を中心に108店舗を設置し、両府県にまたがる店舗ネットワークを展開しております。

	店舗数	店舗外ATM
和歌山県	68	117
大阪府	37	45
奈良県	2	1
東京都	1	—
三重県	—	1
合計	108	164

(インターネット支店含む)

※このほか、資産運用に関するコンサルティングデスク「紀陽 お城の前の相談室」、インスタブランチ「iプラザ イズミヤ和歌山店出張所」、外資両替専門の「関西国際空港出張所」、住宅ローンセンター(10カ所)、ビジネスサポートセンター(本店内)を開設しております。



(出): 出張所

株式会社 紀陽銀行

- 設 立 日 明治28年5月2日
- 所 在 地 和歌山市本町1丁目35番地
- 資 本 金 800億96百万円
- 店 舗 数 108店

(和歌山県68カ店、大阪府37カ店)
(奈良県2カ店、東京都1カ店)

- 従 業 員 数 2,242名(出向者を除く)
- 上場証券取引所 東証第一部



■発行済株式総数

普通株式 73,399,948株

■株主総数

普通株式 21,967名

※株式会社紀陽ホールディングスと株式会社紀陽銀行は、平成25年10月1日に株式会社紀陽銀行を存続会社として合併し、東京証券取引所市場第1部に上場いたしました。

■配当方針

利益配分につきましては、銀行の公共性に鑑み、経営の健全性を確保するための適正な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を実現することを基本方針としています。

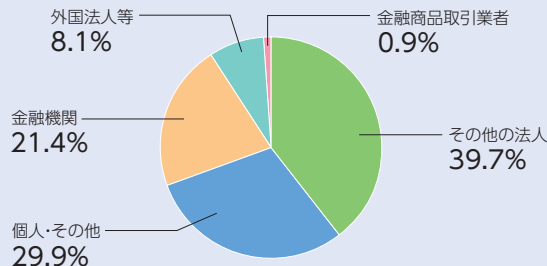
■株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

■株式事務取扱場所

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話無料)

■所有者別株式分布 (平成26年3月31日現在)



■大株主の状況

氏名又は名称	持株数等(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,977	2.72
紀陽フィナンシャルグループ従業員持株会	1,675	2.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,384	1.90
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,200	1.65
株式会社 湊組	1,041	1.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	861	1.18
株式会社島精機製作所	839	1.15
ザチースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	821	1.13
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口3)	793	1.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	785	1.08

- (注) 1. 持株数等は、千株未満を切り捨てて表示しています。
2. 当行は、自己株式805,079株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

株式に関する各種手続き

届出住所・姓名などの変更、配当金の振込先の指定または変更につきましては、口座開設されている証券会社(証券会社に口座開設されていない株主さまは、上記の三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部)へ届け出ください。

単元未満株式をお持ちの皆さまへ

1単元(100株)未満の株式を保有されている株主さまは、保有株式の買い取り請求または単元株への買い増し請求をしていただくことができます。詳細につきましては、上記〈株式事務取扱場所〉までお問い合わせください。

(追記) なお、お手続きに必要な書類等については、下記のホームページにお入りいただき、検索することができます。

〔三菱UFJ信託銀行HP <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>〕

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、見通しと異なる可能性があることにご留意ください。



株式会社 紀陽銀行

平成26年6月発行

経営企画部 広報・CSR推進室

〒640-8656 和歌山市本町1丁目35番地

TEL.073-426-7133

<http://www.kiyobank.co.jp/>

表紙写真：熊野古道(大辺路 富山平見の石畳道)

熊野古道は、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部としてユネスコの世界遺産に登録されてから今年で10年を迎えます。

当行もこの貴重な自然環境を次世代に継承するために、様々な活動を行っております。

(写真提供:平 寿夫)



紀陽フィナンシャルグループは、2015紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会を応援します。